

41【街の散策からの気づき発見】

「東八幡神社秋季大祭」でコミュニティの伝統文化継承を考える

会員 K.T.

10月19日(日)、「令和7年度東八幡神社秋季大祭」の掲示板のお知らせに誘われて、お神輿渡御の参拝見学に出かけた。

東八幡神社の神輿渡御の秋季大祭は隔年で行われる、という。東八幡神社から神輿・猿田彦天狗・神官・氏子達が各町内を廻り、家内安全・無病息災・家庭の繁栄と各町内の発展を祈願する祭だ。

東八幡神社氏子会は、大砂(粕壁東2丁目付近)・一宮町(粕壁東4丁目付近)・東町(粕壁6丁目付近)・川久保(緑町2丁目付近)・元新宿(南3丁目/八幡神社境内)・太田(南1丁目付近)・元町(粕壁東1丁目付近)・本町(粕壁東2丁目付近)・三枚橋(粕壁東2丁目付近)の9つを、9:00~12:30で各町内渡御予定時間が決められ、神輿は軽トラック、神官・天狗・黒の礼服の町内代表者たちはマイクロバスに乘せられて廻る。故老曰く、「昔はね、神輿を担いで廻ったんです。いまは担ぐ人がいません。」、という。

各地区の定められたところで、神輿は止まり、神輿前に猿田彦大神が立ち、神主が地域の安寧を祈る祝詞奏上し、お祓いを行う。

これは「渡御祭」といわれ、神社に鎮座して地域を守っている神様に神輿に遷っていただき、氏子の手により氏子地域を巡幸する神輿渡御の祭礼である。日本の各地域で行われている。神様の乗り物である神輿は天狗の猿田彦大神が前導するのが習わしになっている。神輿渡御の先導役の猿田彦は長い鼻と赤ら顔のお面をかぶり、高下駄をはいて、色あでやかな衣装をまとい、太刀を持ち、鉾を携えている。余談ながら、猿田彦は日本書記に、ニニギノミコトが地上へ降臨する、天孫降臨の場面で、登場する。「(前略)この先に1柱の神がいます。分かれ道のところで待っていて、鼻の長さが約56cm、身長210cm以上、相当な大柄です。しかも、口元が光り、目は鏡のようで、顔全体がホオズキのようです。(中略)アメノウズメが派遣されて、『天照大神の御子孫が進む道に、そのようにして待っているのは何者か』と、問うと、その神が『天照大神の御子孫が地上へ降臨されると聞きました。それで、お迎えしようと待っています。私は猿田彦大神です。』と答えた。(後略)」、

このような由来で、猿田彦は導きの神・進路開拓の神といわれ、多くの地域での神輿渡御の祭事で先導役となっている。この地区に限らず、秋祭りは、主に9月から11月にかけて行われ、収穫に感謝する、神様への感謝と祈りの儀式である。農耕と深く関係していた。「神輿渡御」の後を、しばらく自転車ですいていて気が付いたことがある。各地域でのご祈祷に参加する人は少ない。年配の方が多い、子供の参加はまれだ。農耕に関わる人が少なくなり、「渡御祭」が神様へ収穫を感謝する事や「神輿渡御」で地域の家内安全・無病息災の祈りの伝統文化行事である、との認識が薄くなり、「渡御祭」に関心を持つ人が減っているのだろう。

元新宿八幡神社の境内の隅で「神輿渡御」を見ていたとき、地元の人らしい方から「あれは何をしているのですか?」と聞かれた。「東八幡神社の秋季大祭の『神輿渡御』で、各氏子町内を廻り、地域の皆様の家内安全・無病息災・町内の発展を祈願する祭事です。」、と答えた。「秋季大祭・お神輿渡御のお知らせ」は、各氏子会町内で、掲示板や回覧板等で通知されているが、知らない人もいるようだ。春日部市に限らず、近年は伝統行事への参加者が少なく、祭りが一部の関係者だけで行われることも多い。地域の伝統行事を知らない人もいるようだ。祭りは、町内会あるいは自治会が中核となって地域の人々が参加し、共に祭りを行うもので、地域コミュニティの醸成や一体感を育ててきた伝統行事だった。各自治会会員の高齢化、役員のなり手不足等、各地の自治会の多くは、これまでのように地域コミュニティの役割を果たすことが、次第に困難になってきている、と聞く。「秋季大祭」・「神輿渡御」の伝統文化行事は、この地域の伝統文化を受け継ぐ次世代の若者や子供の参加が少ない。『この先、この伝統文化行事の継承は危ういかもしれない。』、と思う。

